令和７年１０月６日発行

アグリ筑西 令和７年 秋号

実りの秋になりました。
収穫等で忙しい時期ですが、
農作物の防犯対策には十分に
気をつけましょう！

県西農林事務所　経営・普及部門
（筑西地域農業改良普及センター）
発行
電話番号：0296(24)9206
FAX　：0296(24)6979

筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

シリーズ「農業経営者に訊く」Vol.11

株式会社榎戸農産 会長
榎戸 一夫 さん（桜川市　水稲＋麦＋ソバ経営）

（左から）村木農場長、榎戸陸社長、榎戸一夫会長

榎戸さんは、㈱榎戸農産の会長を務め、桜川市（旧真壁地区）で大規模普通作を経営されています。会社では、代表取締役である長男の陸（たかし）さんと農場長の村木陽一郎さんとともに、効率的な事業を展開されています。

●経営の概要について教えてください。

水稲、麦、ソバを中心に、普通作の大規模経営を行っています。

近隣農家の高齢化に伴い耕作依頼が増えているため、更なる規模拡大に備えて、ドローンやGPS田植え機等のスマート農機導入で省力化を進めています。

追肥作業でのドローン活用

田植での直進アシスト機能の活用

●法人化のきっかけや理由、経営方針について教えてください。

昨年までは家族経営でしたが、家族や従業員の社会保険などの雇用環境整備、さらに次世代への円滑な経営継承が課題でした。

そこで、茨城県農業参入等支援センターのサポートを経て、本年8月に経営の体制整備・強化を進められるよう法人化し、経営組織の見直しを図りました。

㈱榎戸農産では「遊びを楽しむ」、「新しい農業を実践する」ことを経営理念とし、事業計画に基づく経営規模の拡大、効率的な営農、新たな事業展開を目標に経営を展開しています。

●今後の事業展開について教えてください。

経営規模の拡大はもちろんのこと、消費者・実需者が喜ぶ農産物を生産していきたいです。

そのためにも、社長と農場長が会社の安定経営を実践できるよう、サポート役に徹した後継者育成に努めているところです。

また、ドローン農薬散布による請負などの新事業の取組みに留まらず、ＤＸ時代を迎えるにあたって、最先端技術を積極的に導入していきたいです。

貴重なご意見を聞かせいただきありがとうございました。これからも農業経営者として地域を牽引されることをご期待いたします。

営農情報　普通作（大豆・そば・麦）

大豆・そばの適期収穫について

適期を逃すと、品質低下や収量減につながります。適期を意識して収穫しましょう。

大豆の収穫適期の目安

☑子実水分18%以下
（爪で押すと跡がの残る程度）

☑茎水分50%以下
（手で折るとポキッと折れる状態）

＜適期を逃した場合の影響＞
- 早すぎ：水分が多く汚粒・しわ粒になる
- 遅すぎ：裂皮、裂莢が発生しやすくなる

＜収穫時のポイント＞
- 朝露が乾いた11時頃から作業を開始する
- 雑草や青立ち株は事前に除去する
- 高刈りで泥の混入を防ぐ

そばの収穫適期の目安

☑黒化率80～90%になったら収穫
（黒化率:果皮が黒く成熟した子実の割合）

（注）
- 収穫が早すぎると、茎葉水分が高く機械に詰まりやすい
- 収穫が遅れると、霜や降雨で脱粒し収量減少や品質低下につながる

麦類の播種について

麦類の高品質・安定生産を図るためには、良好な出芽苗立ちの確保と適切な生育量の確保が重要です。そのためにも適期播種に努めましょう。

【播種のポイント】

播種時期：大麦「カシマゴール」11月上旬
　　小麦「さとのそら　」11月上旬～中旬
播種量　：大麦「カシマゴール」 6～8kg/10a
　　小麦「さとのそら」　 8kg/10a

（注）
- 播種期の遅れは、麦の生育期間が短縮され、穂数・収量の低下につながる。やむを得ず播種が遅くなった場合は、播種量を増やし、苗立ち数を確保する
- 浅播きは寒さや乾燥害を受けやすく、深播きは出芽揃いが悪くなる。このため、播種深度は2～3cmとなるよう、作業前に播種機を調整する

【管内の動き】下妻市で「水稲の高温障害対策研修会」が開催されました

令和7年7月5日、JA常総ひかり下妻支店にて、近年続く高温傾向をふまえた水稲の栽培管理について学ぶ研修会が開催され、下妻市内の水稲生産者約50名が参加しました。

研修会では、まず普及センターから、「にじのきらめき」や「ふくまる」など高温に強い品種への切り替えが最も有効な対策であること、基本的な栽培技術の徹底が重要であることを説明しました。続いて、県農業総合センター農業研究所から、昨年多く発生したイネカメムシ等の斑点米カメムシ類について、発生状況と生態、被害の特徴、防除のポイント等に関する説明がありました。JA常総ひかりからは「にじのきらめき」の生産拡大に向けた取り組みについて説明がありました。今後は、地域全体での高温対策の取組みの更なる強化が期待されます。

秋～冬にかけたナシの病害虫対策

ナシの病害虫対策は、園内で越冬する病害虫密度を減らし、翌春の発生リスクを下げることが重要です。以下の内容を参考に、主要な病害虫の防除について、秋冬季の対策を実施しましょう。

○黒星病

この時期は、葉裏に、薄く墨を垂らしたような黒色の病斑を生じます（写真１）。病斑上でつくられる病原菌（分生胞子）が休眠芽に感染すると（図１）、病原菌はそこで越冬し、翌春に芽基部病斑として発症することになります。休眠芽への感染を防ぐために、薬剤散布による防除を実施します。

写真１　黒星病の秋型病斑

＜薬剤による防除のポイント＞

９月下旬から11月上旬に、約15～20日間隔で２回程度、薬剤散布を行いましょう。

生育期に黒星病が多発した園や、降雨が多い年、落葉が遅い年には、３回目の追加防除も検討しましょう。

図１　秋型病斑から芽への感染

黒星病は、上記の休眠芽上での越冬に加え、罹病した落葉上でも越冬します。翌春３月以降、降雨のたびに落葉から病原菌（子のう胞子）が舞い上がり、葉や幼果等に感染します（図２）。この感染を防ぐため、落葉処理を徹底しましょう。**落葉処理によって伝染源を減らすことは、薬剤散布と同等以上の防除効果が期待できます。**

＜落葉処理による防除のポイント＞

ブロワーや熊手等を使用して集めるとともに、風で圃場の端にたまった落葉を、穴に埋めるか園外に持ち出す等して処理します。

落葉を集めて処理することが難しい場合、草刈り機で粉砕し、ロータリーで土中にすき込むことも一定の効果が期待できます。

図２　罹病落葉からの感染

○炭疽病

近年、「豊水」、「恵水」、「新高」等で、炭疽病の発生が散見されます（写真２）。黒星病と同様に落葉上で越冬しますので、上記を参考に落葉処理を徹底しましょう。

写真２　感染中期～後期の様子

○カイガラムシ類

ナシを加害するカイガラムシ類は種類によって越冬の形態は異なりますが、主な越冬場所は、粗皮や誘引ひもの間隙です。対策として、剪定時に粗皮削りとともに誘引ひもの更新を行いましょう。

担い手支援の取組

令和７年度農業経営士等の認定者・退任者紹介

茨城県では、農業の担い手育成と地域農業振興をすすめる地域リーダーとなる優れた農業者を農業経営士・青年農業士として認定しています。

（※令和6年度認定より、「農業経営士」と「女性農業士」が「農業経営士」に統合されました。）

７月１１日にザ・ヒロサワ・シティ会館（水戸市千波町）において認定式並びに退任式が開催されました。当管内からは、新たに農業経営士２名、青年農業士２名が認定され、農業農業士１名、青年農業士４名が退任されました。

〈認定者〉

●農業経営士

島田　智之氏
（筑西市）

粟野　寿広氏
（下妻市）

●青年農業士

大吉　達郎氏
（筑西市）

塚田　祐貴氏
（下妻市）

〈退任者〉

●農業経営士
篠﨑　毅　氏（筑西市）

●青年農業士
杉山　善昭　氏（筑西市）
鈴木　直生　氏（筑西市）
大和田　直輝　氏（桜川市）
倉持　昌司　氏（下妻市）

退任されました皆様、長きにわたり多大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございました。
また、認定されました皆様の今後のご活躍を期待しております。

【管内の動き】農業学園第２回講座「先進事例研修」を開催しました

７月31日、農業の基礎知識や技術の習得などを目的に農業学園第２回講座を開催し、新規就農者等１９名が参加しました。

当日は、筑西市で先進的に常時雇用を導入し、大規模施設野菜経営（こだまスイカ、抑制トマト）を実践されている島田智之農業経営士を講師とし、講話と現地見学を行いました。

講話では、経営目標とともに強み弱みを理解して行動していくことの重要性、常時雇用導入に至った経緯と今後の展望など、経営者としての考え方を伺うことができました。

現地見学では、トマトのハウスを見学し、年々高温となる環境の中で試行錯誤しながら栽培されている話を聞くことができました。また、高温対策を含めた栽培管理や使用している資材等について、活発な質疑応答が行われました。

お知らせ

●「バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン」について

近年、バイオスティミュラントと呼ばれる新たな生産資材の開発・使用が国内外で進んでいます。これらの資材は農作物の高温や乾燥などのストレスに対する耐性を高めたり、栄養分の吸収・利用を改善させることにより、品質や収量を向上させる効果が期待されています。農林水産省HPに表示等に係るガイドラインが掲載されていますので、ご参照ください。

●本県における10～12月に活用可能な農業技術対策について

農業総合センターHPに掲載されていますので、ご活用ください。

- 有機農業士づくり事例集
- 家畜ふん堆肥等を活用した肥料低減事例集
- 台風の接近・通過による農作物等の被害防止に向けた技術対策について
- 茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル
- スマート農業導入の手引き
- 生産資材費高騰に対する技術支援マニュアル
- 麦類栽培ほ場におけるカラスムギ防除技術マニュアル